ふるびら

HOKKAIDO
FURUBIRA

2018
平成30年

古平町150年記念町勢要覧

協働で創る住みよい
やすらぎの郷、ふるびら

日本海に面するニセコ積丹小樽海岸国定公園に位置し、青き海と緑の山に囲まれた古平町。
ここには、先人から開拓精神を受け継いだ心厚き人々の豊かな暮らしがあります。

古平町長
貞村　英之

古平町は、北海道の西部、積丹半島の東中央部に位置し、行政区域188.36㎢のうち92％が山林で、古くはニシン漁を中心とした漁業で発達してきた、青い海と緑の山に囲まれた自然豊かな町です。

いま、古平町は全国の自治体同様、人口減少や少子高齢化問題のような課題を抱えております。しかし、平成23年度策定の10年間の将来像を描いた第5次総合計画に基づきながら、課題解決を目指すべく安心して暮らせる町づくりを進めています。住民のみなさまとの連携を一層強め、「協働で創る住みよいやすらぎの郷、ふるびら」を実現していきます。

古平町には、これまで受け継がれてきた豊かな自然、伝統文化、歴史、気風があり、今日の町の礎となっております。まちづくりにあたってはこれらを尊重しながら大切にしていくべき“古平らしさ”を念頭に置いて取り組みを推進していきたいと思っております。

この町勢要覧では町の一端をご紹介させていただきます。本誌をご覧いただき、古平町へ足を運ぶきっかけになれば幸いです。

セタカムイ岩／アイヌ語で「犬の神」を意味する名を持つ奇岩。犬が遠吠えする姿に似ていることから、漁に出て帰らぬ人となった飼い主を待ち続けた犬が岩になったという伝説が残されています。

豊かに育む

郷土を愛する豊かな心を育て、地域文化を創造するまち

まちの未来を輝かせるのは、子どもたちの伸びる力と、人々の学び続ける心。学術から芸術文化・スポーツまで、多様な知見が視野を広げ、人生を豊かにします。

幼児センター「生活発表会」
園児たちが日頃の成長を家族に発表する楽しい行事。

子育て支援　安心して子どもを生み育てられる環境づくり

子どもたちが健やかに育まれる環境を目指し、幼児センターや子育て支援センターを拠点に民間と連携を取りながら、地域全体で子育て支援を推進しています。不妊治療や放課後児童クラブへの助成など町民ニーズに対応した多様なサービスの充実に取り組んでおり、幼児センターでは低年齢児保育や一時預かり保育を実施し、入園待機児童数ゼロの実現を目指しています。

子育て支援センター
延べ人数年間約3,000人が利用する、古平町の子育て支援の拠点。

定期乳幼児健康診査
子どもの発育を確認し、育児の疑問や不安を解消。

放課後児童クラブ「一期倶楽部」（民設民営）
共働き・ひとり親家庭の要望に応え、小学１年～６年の児童が利用。

学校教育　自ら考える力、思いやりの心を育てる教育

幼・小・中のそれぞれの段階で円滑な指導ができるよう相互連携し、習熟度に応じた指導や英語活動、情報機器の活用などで総合学力を伸ばすだけでなく、自然体験やボランティア活動・部活動、学校給食を通じた食育など、工夫を凝らした特色ある教育活動を行っています。また、学校・学校評議員・保護者を結ぶ体制を充実させ、いじめや不登校問題への対応、特別支援教育支援員の配置などで、信頼される学校づくりを進めています。

古平小学校「外国語活動」
外国の言語や文化について体験的に理解を深め、国際社会へ対応した人材を育成。

古平中学校「漁師出前授業」
「生きる力」を伸ばす教育を実践する古平中学校の総合的な学習の授業。

社会教育　生涯を通して親しむ学習・芸術・スポーツ

町民が心豊かで生きがいのある充実した人生を送ることができるよう、いくつになっても主体的に楽しく学べる生涯学習社会を目指します。学習情報の発信をはじめ、地域資源を生かした体験やスポーツ、学習機会の提供、文化会館・Ｂ＆Ｇ海洋センターなどの活動施設の整備を進めています。また、芸術文化や社会体育の分野でも、アートやスポーツに親しむ機会を提供し、町内の各種団体の活動支援も行っています。

文化会館「文化教室～手打ちそば作り～」
生涯学習活動の拠点となる文化会館ではさまざまな企画を実施。

海洋センター「スポーツクラブ」
小学3年までの子どもたちが、講師の指導で多彩な運動に挑戦。

「ふるびらと私」❶

私の古平町は、「逞（たくま）しい」

古平町教育委員会 外国語指導助手　**ホーキンス デバン**さん

昨年初めて古平町に来たとき、空き家が多くて静かなまちだと感じました。しかし、本当の古平町は町民が元気で、たくさんのイベントがあってにぎやか。私も学校の先生や生徒と一緒にロードレース大会に参加しました。古平の小学生は元気で逞しく、中学生は塾や部活で母国カナダの中学生より忙しいです。

こころを耕す

地域みんなでつくる、笑顔あふれるまち

ワールドキャンプ

古平国際交流協会が家族旅行村に北海道大学の留学生を招いて交流。小学生や園児とその親たちが中心に参加し、国際交流を楽しんでいます。

文化祭

たらつり節踊りや中学生の吹奏楽などの発表と、書道などの住民作品の展示を行う恒例の文化行事イベント。平成29年度で第50回を迎えました。

少年少女わんぱく王国

小学校の3〜6年生を対象に、清掃活動や和菓子づくり、雪遊びなど、まちの特色を生かした四季折々の体験活動を実施。年配の方とも交流し郷土の文化や歴史も学びます。

たけなわ学級

工芸教室や町外視察など多様な催しを年に10回ほど行い、高齢者の生きがいづくりを支援。80歳を超える参加者も元気に活動しています。

盆踊り大会　にぎわいが促す ノーマライゼーション

高齢者施設連絡協議会が主催し、介護を必要とする高齢者や障がいのある方々などに、古平の伝統文化に親しんでもらう行事。地域の子どもたちを含めて毎年150人以上の参加があります。

運動会・体育大会

幼児センターみらい

家族に通園する子どもがいなくても、多くの町民が応援に集まる笑顔いっぱいの行事です。

古平小学校

さまざまな競技の中でも、南中ソーランのラストを飾る迫力満点の組み体操が毎年会場を沸かせます。

古平中学校

学年対抗の長縄跳びは全校生徒が盛り上がる定番種目。毎年、生徒数を上回る観客がやってきます。

「ふるびら 縁（えにし）の文化人」

吉田（よしだ） 一穂（いっすい）

故郷・古平を愛し続けた詩人

詩人の北原白秋を師とし、放浪詩人の金子光晴を友とし、難解で独特な詩語世界を創った吉田一穂は、大正・昭和時代に活躍した詩人・童話作家・評論家です。

7歳から多感な少年時代を過ごした古平町を終生こよなく愛し、作風にも北海道の特質が強く現れていることから「極北の詩人」とも呼ばれています。色紙を乞われるたびに書き記した「白鳥古丹」は、一穂の理想郷を表す言葉であり、故郷・古平のことでもありました。

林（はやし） 竹治郎（たけじろう）

油彩の五百羅漢を描いた画家

札幌第一中学（現・札幌南高校）の美術教師だった林竹治郎は、明治38年に第1回文部省美術展で「朝の祈り」が入選し、画家として注目されました。

大正8年に五百羅漢図の寄進を発願した古平の大網元・種田富太郎の依頼を受け、約20年をかけて五百羅漢を描き上げました。すべて顔かたちの異なる羅漢たちは、竹治郎の親戚や知り合い、教え子などがモデルであるといわれ、どことなく親しみの持てる表情をたたえています。

大島（おおしま） 豊吉（とよきち）／田村（たむら） 栄蔵（えいぞう）

たらつり節をつくった漁師

ソーラン節、江差追分、十勝馬唄、道南口説に並ぶ北海道の五大民謡のひとつ「たらつり節」は、古平町在住の漁師で民謡の名手だった大島豊吉と田村栄蔵が、昭和30年代前半に共同で作詞作曲しました。南茅部の「たらつり口説節」が下敷きになっているといわれ、その元唄は越後の瞽女唄（ごぜうた）とされています。

衰退したニシン漁に取って代わったタラ漁で歌うためにつくられた作業唄は、連続する節回しに多様な歌詞が乗り、体を動かしながら気持ちよく歌えるのが持ち味。漁の臨場感をよく伝えています。

句碑「白鳥古丹」

五百羅漢

「古平町たらつり節発祥の地」記念碑

健やかに暮らす

健康で生きがいと支え合いのあるまち

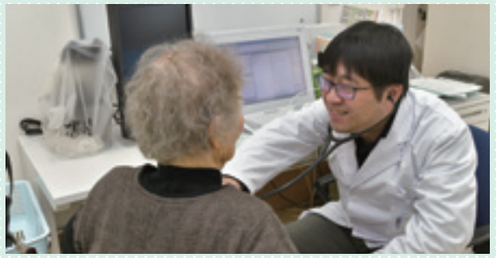
安心できる生活のために必要なのは、心と体の健康と、いざというときの社会の支え。病気や加齢、障がいに立ち向かえる制度の存在は、現代を生きる力の土台です。

文化会館で開催された敬老会
喜寿・米寿など年祝いの方々を表彰。毎年150名以上が参加。

健康・医療　心身の健康を守る安心の保健・医療を充実

病気の発生や悪化を防ぐため、生活習慣を改善する健康教室や、19歳からに対象を拡大しての定期健診の実施、乳幼児に効果的なロタウイルスワクチン接種などに助成しています。また、いつ病気になっても必要な医療が受けられるよう、町立診療所の診療体制の充実のほか、近隣市町村の医療機関と連携して周産期と救急医療の維持・安定、妊婦健診の通院負担の軽減など、広域的な医療体制の充実に取り組み、町民の健康を守っています。

地域福祉センター　（デイサービス）
町民の健康を保持・増進などのさまざまな社会福祉事業を実施。



町立診療所「海のまちクリニック」
平成28年から指定管理者として医療法人恵尚会が診療を開始。

元気プラザ　（地域包括支援センター）
高齢者が入居する生活支援ハウスや保健・医療・高齢者福祉などに関しての相談窓口。

高齢者福祉・障害者福祉　高齢者や障がい者の暮らしを支える体制

年齢を重ねても住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、生活支援や介護予防事業を行っています。通院や除雪、生きがいづくり活動にはボランティア団体などの力の活用を目指し、認知症や要介護の方を支える地域ネットワークづくりも進めています。

障がい者支援では、多様なサービスを一体的に提供している社会福祉法人古平福祉会と連携し、自立支援給付、社会参加への促進、町民への啓発活動などに取り組んでいます。

高齢者複合施設「ほほえみくらす」
住宅・介護支援・地域コミュニティなどの機能を１カ所に集約。

就労継続支援施設「みっくすベジタ」の出張所
（店舗：まりんはうすふるびら）
食堂、海の家、観光情報コーナーなどの多機能な施設。

生活福祉・国民健康保険　ひとり親世帯や生活困窮世帯を適切に援助

ひとり親世帯や生活困窮世帯の経済的な自立に向け、民生委員や関係機関と連携し、生活実態に応じた適切な援助や制度利用の助言、相談体制の充実を図っています。

平成30年度に財政運営の主体が後志広域連合から北海道に移管された国民健康保険事業では、引き続き被保険者の健康管理、医療費の適正化、保険料の収納率向上に努めています。

文化会館での民生委員協議会の様子
町内の個々の事例に対し、全員で協議し問題を共有・解決。

「ふるびらと私」❷

私の古平町は、「愛する地域」

一般社団法人ふるびら和み 代表理事　介護福祉士・介護支援専門員・看取り士　**本間 利和子** さん

「住み慣れた地域で最期まで」というご希望をかなえられるのが介護の仕事のやりがい。ある利用者様の最期に接し、自分のやりたいことは看取りまで寄り添うことだと気づき、4年前に看取り士の資格を取りました。これからも地域で安心して暮らせるよう、優しい声かけのできるまちであり続けたいですね。

快く住まう

安心・安全・快適な住みよいまち

まちの住み心地を決めるのは、水や道路など日常的に使っているインフラ設備や周辺環境の質。地道な保守管理の継続を町民が意識することなく過ごせるのは、その質が高いことの証しです。

中島公園
町内に１０か所ある公園に対する町民満足度の向上を目標に計画的に整備。

都市計画・道路・河川・住宅・上下水道　安心快適な生活の基盤を通年で維持

古平町の都市計画マスタープランでは、安心安全、自然の保全と活用、都市運営コストを削減するコンパクト設計などを推進しています。秩序のある快適な市街地の形成を目指し、町内を走るさまざまな道路や河川、町営住宅の維持管理などのほか、安全で安定した水道水の供給や生活環境の改善、水質保全を図る上下水道施設の適切な管理を行っています。

町道高校通線
勾配緩和と車道拡幅の工事が完了。国道・道道の整備も関係機関に要請中。

町営住宅の清川団地
平成27・28年度に各1棟4戸、平成29年度に1棟8戸を建設。

浄水場
町民の生活に欠かすことのできない安全な水道水を安定供給。

火葬場と墓地・廃棄物処理　生活に不可欠な施設を計画的に保守改修

年間平均60件ほどの火葬利用がある火葬場は老朽化しており、平成31年度に建て替えを予定しています。また、敷地に限りのある墓地も需要を見極めながら、土地の有効活用を図っていきます。

廃棄物処理では、ごみの３R「発生抑制（Reduce）」「再使用（Reuse）」「資源化（Recycle）」に取り組み、町民・事業者・行政がそれぞれの役割を理解し、協働で循環型社会づくりを目指しています。

クリーンセンター
一般廃棄物最終処分場では、再利用できないものを埋め立てて処分。

ミックスペーパー回収
ごみの3Rに取り組む一環として、紙袋や封筒などの紙ごみを分別回収。

環境衛生・除排雪　1年を通して快適で清潔な住環境を維持

毎年のボランティア清掃活動を通して環境に対する意識が高まり、町民・行政による協働の環境美化運動への発展が期待されています。

除排雪は冬季の道路交通を確保するために必要不可欠で、地域の方々の協力を得ながら円滑な作業が行われています。

除排雪
町道を細かく分け業者に委託し、綿密な除排雪を実施。

クリーンフェスティバル
毎年みどりの日に開催している大規模なゴミ拾いイベント。

交通・交通安全と防犯　交通事故や犯罪を未然に防ぐまちづくり

町民の暮らしを支える足である路線バスとコミュニティバスの利便性向上に努めています。

また、警察や学校、PTA、防犯協会などと協力して事故や犯罪の予防に取り組んでおり、振り込め詐欺などの犯罪や交通事故死はゼロ。その他の犯罪も大変少ない安全なまちを実現しています。

コミュニティバス
民間事業者に委託し、自家用車を持たない町民の足として町内を巡回。

交通安全街頭啓発
交通量の多い国道229号線で、交通安全推進委員や警察、役場職員などが協力し注意喚起。

もしもに備える

地域みんなでつくる、いざというとき頼れるしくみ

防災訓練 町主催で行う 実践的な大規模訓練

毎年多くの人が参加する防災訓練で、役場職員や町民らが災害時の行動を確認。
（写真は土砂災害を想定した訓練後の講演）

防災・危機管理 自然災害から命と財産を守る備えと対策

地震や津波、洪水などの自然災害から町民を守るため、関係機関と連携して危険個所の把握・点検し、必要があれば改修を要望・検討します。平成22年の豪雨災害の経験から初動の重要性を認識し、災害発生時には防災無線を活用して住民に避難を呼びかけます。また、高齢者や障がい者については避難支援プランに基づいて組織的に避難支援を行います。さらに、有事への対応として古平町防災計画に基づいた体制づくりを進めます。

消防・救急 北後志5町村で応援体制を確立し整備強化

古平町の消防・救急体制を担うのは、北後志消防組合古平支署です。高規格救急車の導入と６名の救急救命士がおり、救急・救助体制の整備が進みました。消防の分野では、古平支署の消防職員と古平消防団員の連携促進、消防資機材や消火栓・防火水槽の充実で整備を強化しています。また、救急医療講習会などを通して応急手当の普及を図ることや、消防意識を高める広報活動で住宅火災警報器設置率100%を目指しています。

防災ハンドブック

古平町が独自に作成し配布。津波や土砂災害、洪水といった災害種別ごとの対策や避難場所などを記載しています。

◀各戸に設置している個別受信機。

防災無線

防災情報を町民へ一斉伝達する同報系地域防災無線を平成25年度に整備。その後は防災無線を用いた避難訓練を繰り返し行い、一斉放送と避難行動の連携強化を図っています。

防災無線での呼びかけ

普段は週3日18時すぎに町からのお知らせが流れる防災無線。災害発生時は直ちに正確な情報伝達で避難を促します。

防災グッズ斡旋

災害ごとの特質や地域性、生活習慣などを考慮して町が厳選した防災グッズをリスト化。斡旋する全14点の商品は対象者や避難日数によって異なっています。

消防演習

昭和24年5月10日の古平大火を教訓に、毎年5月上旬に実施している演習。消防団員20～30名が文化会館前で小隊訓練、町内2カ所の公園で消火訓練を行います。

機能別消防団（水上バイク隊）訓練

古平消防団に所属し、水難事故発生時には機動力を生かした救助活動を行う水上バイク隊。万一の時に備えて訓練も怠りません。

水難救助活動訓練

平成29年の北後志消防組合古平支署と積丹支署の合同訓練では13名の団員が参加。おぼれた釣り人を隊員が泳いで海岸まで運び、はしごを活用して岸壁から引揚げる救助方法を訓練しました。

水防工法訓練

水害に備えて土嚢をつくる訓練を、平成29年度に20年ぶりに再開。40名余りが参加し、できた土嚢は公園に配備されました。今後は年に1度実施を予定しています。

「ふるびらと私」❸

私の古平町は、「災害少ない住みよいまち」

北海道消防協会 後志地方支部余市分会長　古平消防団 団長　**髙野 俊和** さん

団員歴50年、団長になって11年目です。山菜採りの行方不明者を捜索し、3時間後に遭難者を背負って笹やぶから現れた団員の姿を、感動の涙と拍手で迎えたこともありました。多くの仲間たちと良い人間関係を築けるのは消防団員ならではの財産。今後も町民の期待に応え、災害に強いまちづくりを目指します。

いきいきと働く

魅力ある資源を生かす地場産業の活性化したまち

まちの活性化を促すのは、社会の中でさまざまな役割を担う人がつながったときのシナジー。「働くこと」は「傍を楽にすること」。いきいきと働く人は、まちにゆとりをもたらします。

独自配合の調味料で味付けされたタラコは町を代表する特産品のひとつ。

漁業・水産加工業　「獲る」から「つくり育てる」への転換

古平町の基幹産業である漁業の安定化のため、海中林の造成や山林の保全による漁場回復、稚魚放流・海中養殖といった栽培漁業、資源管理型漁業を支援し、古平漁港と周辺環境の整備を進めて衛生管理型漁港への転換を図っています。同時に、水産加工業の経営安定化のため、新製品開発や販路拡大などを支援し、販売促進にPR効果の高いふるさと納税制度を活用しています。

タラの水揚げ
古平漁港ではホッケ、スケトウダラ、ブリなど多くの水産物を水揚げ。

ウニの身をとるようす
ウニの種苗放流に加え、平成27年度からはキタムラサキウニの海中養殖実証試験を開始。

古平町のふるさと納税返礼品
特産品のタラコを中心に、さまざまな海の幸が味わえるセットが人気。

農業・畜産業・林業と森林保全

農地は集積化し、森林機能は積極活用

生産性の高い農業経営に向け、農地の集積化を図り、遊休農地や耕作放棄地の解消に努めています。また、農業者の高齢化や後継者不足に対しては高収益作物への転換や契約生産などの確立を支援し、新規就農希望者への情報提供やサポートに努めています。また、古平町は総面積の9割を森林が占めていることから、水資源の涵養といった森のさまざまな機能を最大限利用できるよう、植樹祭の実施など町民と協働で緑化推進に努めます。

植樹祭
毎年、多くの町民や団体が参加し、アカエゾマツなどを植樹。

稲刈り
収穫された米は小樽や余市、倶知安など町外へ出荷したり、小中学校の給食などでも提供されています。

商業・観光

広域組織で観光を振興し、まちを活性化

奇岩の景観や新鮮な海産物など、恵まれた観光資源を活用した「観光まちづくり」を推進しています。町内の観光協会や商工会はもちろん、後志観光連盟や北後志観光連絡協議会、しゃこたん半島観光振興会などとも連携し、観光客のニーズに対応した観光情報の発信に取り組み、観光客が町内各所を回遊できる仕組みづくりを検討しています。また、プレミアム商品券発行に補助を行い、商業活動の活性化を図っています。

町内外へのPR活動
古平町商工会のマスコットキャラクター「ふるっぴー」がさまざまな観光PRで活躍。

プレミアム商品券の発行
購入価格以上の価値がある商品券で町内商店を活性化。

雇用と労働

職業相談と制度活用で雇用対策を充実

就労支援に向けて、ハローワークや北後志通年雇用促進支援事業協議会と連携し、職業相談体制の整備と、相談支援や就労支援講座などを行っています。また、国や北海道の雇用支援制度などの情報を失業者や地元企業に提供し、同時に雇用機会の拡大と安定的な雇用確保のため、企業誘致や地元企業の活性化に努めています。

「ふるびらと私」4

私の古平町は、「自然の宝庫」

野村養殖場　3代目社長　**野村 佳寿** さん

18年前にUターンし、父からヒメマス養殖業を継ぎました。陸封型紅鮭のおいしさをもっと広めたいと思ったんです。最も人気のある商品はいろり焼き。炭火でじっくり焼くので骨は柔らかで身はふっくら、味は3種類で選べる楽しさもあります。古平のおいしいものや景観はもっとビジネスに生かせますよ。

ともに歩む

みんなで考え、力を出し合う、自立したまち

まちの魅力を測るのは、人口や財政規模といった数字ではなく、住む人がまちに示す愛情の強さ。自ら考え工夫し、地域に暮らす仲間たちとともに築いたまちには、深い愛着が生まれます。

町内会長会議
20町内会から年2回会長が文化会館に集まり、町の課題などについて論議。

広報・広聴と情報公開　まちづくりに町民参画を促し、情報も公開

重要な施策の決定や運用、地域の課題解決を町民と協働で進めていけるよう、広報誌やウェブサイトなどを通じて、わかりやすい情報の発信と幅広い意見の収集を行っています。また、アンケート調査やパブリックコメント、地域担当協働職員制度などを進め、町民の声を行政を生かすしくみづくりに取り組んでいます。

『広報ふるびら』『古平町議会だより』
町民と行政の双方向の情報媒体を目指して町が発行。

町議会　町民の声を反映させて協働で進めるまちづくり

協働で進める古平のまちづくりで、町議会は大きな役割を担っています。地域住民の代弁者として選出された10名の町議会議員は、地域に根ざした活動を展開。平成23年度にスタートし現在後期5年が進行している第５次古平総合計画の策定に際しても、活発な審議を行いました。日ごろから地区の実情を聞き取り、議論に反映させてまちづくりをサポートしています。

古平町議会本会議
文化会館内に設けられている議場で審議。

行財政　組織運営の効率化と、財政運営の健全化

地域主権を体現し自らの責任と判断で魅力あるまちづくりを進められるよう、政策形成能力の向上と、少数精鋭の組織体制の確立に努めています。また、事務事業評価制度の継続による効率的な組織運営と、財政健全化判断指標に沿った持続可能な財政運営を目指しています。業務の効率化を図るため、広域連合や一部事務組合に加盟しています。

『わかりやすい今年の予算』
毎年年度初めに全戸配布される冊子で、年度予算や主要事業を説明。

コミュニティ活動　地域住民が集う場をつくり、連帯感を醸成

町内会連合会やまちおこしの活動の財政的な支援、地域活動を担う人材育成に取り組み、町外の先進事例の吸収や研修制度の利用によって地域を牽引するリーダーを育てています。

また、防災対策や避難行動要支援者対策など地域に密着した活動を通じて、自主的なコミュニティの活性化につなげています。

ふるびら雪あかり
手をつなぐ仲間の会が主催する平成29年から始まった地域住民交流イベント。

沢江町内会が開催した昼食会
ふれあいセンターさわえで、古平産のじゃがいもやかぼちゃを使った団子汁に舌鼓。

「ふるびらと私」❺

私の古平町は、「かつて6千人ほどに好適な町」

元・町史編纂室職員　**村井 芳男** さん

管内の中学校を退職後、町史編纂室や資料室に勤め戦時中の古平空襲などを調べました。明治中期～戦後は人口6～7千人で推移しており、このくらいの人数に好適な町だったのかもしれませんが、さて今の適正は？　できる限りの手を尽くしてまとめた町史を、まちの理解や施策立案に利用してほしいですね。

情熱が集う

ふるびらの四季彩々

猿田彦の火渡り神事

国内外から観光客が訪れる勇壮な神事

ニシンの良好な漁場として古くから栄えた古平の伝統行事は、豊かな海の恵みに感謝し、海の安全と豊漁を願う例大祭。御輿が船に乗る海上御渡火に始まり、大漁旗たなびく山車と御輿が町を練り歩き、夜に行われる火渡り神事で祭りは最高潮に達します。

火の粉を舞い散らして燃えさかる火柱の中を、先導役の猿田彦や2頭の獅子、御輿が通り抜けるたび、観衆は大きくどよめき万雷の拍手が沸き上がります。「板子一枚下は地獄」といわれた海で危険と隣り合わせで働くヤン衆たちを奮い立たせた勇壮さは、現代にも受け継がれています。

【琴平神社例大祭】毎年7月の第2土曜と翌日曜
【恵比須神社例大祭】毎年9月の第2土曜と翌日曜

琴平神社例大祭で悠然と火を渡る猿田彦

古くから拓けたまちならでの伝統文化と、
海と山の両方から得られる自然の恵み。
ここでしか手に入らないものを求めて、
各地から大勢の人々が古平を訪れます。

漁協祭

東しゃこたん漁業協同組合生産部が古平漁港内で夏場の日曜に複数回開催。当日の朝に水揚げされたばかりの新鮮な魚介類や加工品がずらりと並びます。獲れたての魚介をその場で食べられる焼きコーナーも好評です。

ふるびら温泉しおかぜ祭

毎年8月上旬に開催される温泉利用者への感謝イベント。古平産の水産加工品や野菜、卵などを販売するほか、出店でかき氷やビールなどを提供。ライブ演奏やビンゴゲームなどの催しも行われます。

タラコ

ウニ

アワビ

なんばんえび

海と山に囲まれたまちで自然を満喫「ふるびら人気アクティビティ」

釣り

古平は釣り好きが集まる**フィッシングスポット**。古平漁港ではカレイやチカ、遊漁船を利用した沖釣りではソイ、ヒラメ、タラ、ブリ、秋の古平川河口ではサケと、季節ごとの釣果が期待できます。

キャンプ

緑あふれる丘に位置する**古平家族旅行村**は、山と海の両方の自然を満喫できるキャンプ場。ケビンやテニスコート、バーベキューテラスなどを備え、徒歩5分の歌棄海岸では海水浴も楽しめます。

温泉

海を望む高台に建つ**日本海ふるびら温泉しおかぜ**は、番屋をイメージした外観。鉄分を含む黄褐色の湯は源泉掛け流しで、体の芯からぽかぽかに。露天風呂付き家族風呂も好評です。

パークゴルフ

ふるびらあいらんど広場パークゴルフ場は、緑あふれる心地よいフィールドが特徴の全27ホール。用具レンタルがあり、思い立ったらすぐにプレーできる気軽さも魅力のひとつです。

マラソン

毎年10月の体育の日に開催される**古平ロードレース大会**には、1,000名を超すランナーが町内外から参加。走るコースと歩くコースがあり、幅広い層がマラソンを楽しんでいます。

次代が紡ぐ ふるびらの歴史

ニシン漁で栄えた漁場。
マンガン鉱の採掘地。
風光明媚な観光地。
水産加工品の名産地。
さまざまな側面を持つ古平は、
その歴史も彩り豊かです。

ニシンに導かれた人々が築いたまちの礎

良好な漁場として古くから漁師に知られていた古平。寛政11年（1799）には幕府直轄の古平場所となり、嘉永5年（1852）にはニシンの漁獲量が西蝦夷地で一番になったと伝えられています。

人々が定住し始めるのは、越年居住と女人通行が許可された安政5年（1855）から。海岸線を中心に集落が形成され人口も増加し、明治2年（1896年）には北海道古平郡となって開基。まちとしての歴史を歩み出しました。

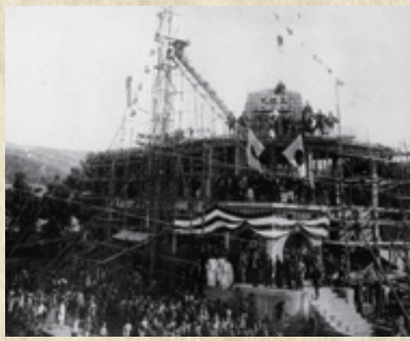
文治 5 年（1189） 藤原泰衡の残党が、鵡川から余市に至る各地に定住。
慶長11年（1606） 松前藩により古平領（古平場所）設定
元禄13年（1700） 松前藩の記録の中に現在の沖町に当たる「ざまき」と言う漁場が表記。
宝永 3 年（1706） 「古平漁場はじめて請負人あり」との記録あり。
享保16年（1731） 古平と漢字で書かれた文書あり。
宝暦元年（1751） 港町の山腹に厳島神社を建立。
寛政11年（1799） 古平場所が幕府の直轄となる。
嘉永 5 年（1852） 古平の鰊漁獲量が二万一千五十五石と西蝦夷地第一位を記録。
安政 4 年（1857） 古平～余市間の山道の一部を開削。
安政 5 年（1858） 古平での越年が許可され、永住ができるようになる。
文久 2 年（1862） 法興山禅源寺が創建される。
慶応 3 年（1867） 琴平神社が創建され、仮社殿を新築。

明治 2 年（1869） 蝦夷地が「北海道」となり、古平は「古平郡」として発足。
明治 5 年（1872） 戸長・副戸長制に伴い、各戸長役場を設置。
明治 6 年（1873） 古平・美国間の道路を開削。
明治 9 年（1876） 公立病院が建設。
明治10年（1877） 浜中に浜中学校を新設。
汽船豊平丸が小樽・古平間を運行。
明治12年（1879） 郡区町村編成法が布告。浜町・港町・新地町・入船町・丸山町となる。
明治15年（1882） 古平警察分署新築。沢江小学校が開校。
明治18年（1885） 古平川上流で金鉱の露頭を発見、稲倉石鉱山の始まり。
明治25年（1892） 小樽～古平までの定期船、毎日一回運航。
明治29年（1896） 酒造業を始める。銘柄「福正宗」「清泉」「千登勢」を販売。
明治34年（1901） 鴨居木で水稲栽培に成功。

稲倉石鉱山
明治18年の開坑以来、世の情勢の影響を受け浮き沈みの激しかった稲倉石鉱山。昭和16年頃、軍の機密で公表されなかったが当時の生産高は全国第一位でした。

『北海道百番附』から「金満家番附」
出典：『月刊クオリティ』特別付録「北海道百番附復刻版」（昭和47年9月、株式会社太陽発行）札幌市公文書館所蔵
かつての道内富裕層にはニシン漁で財を成した大網元が多数いました。大正7年（1918）刊のこの番付には古平の資産家4名の名前があります。

大正 2 年（1913） 古平漁業組合が設立。
昭和 2 年（1927） 古平町役場新庁舎の上棟式を行う。
昭和 3 年（1928） 余市～古平間に乗合バスを運行。
昭和10年（1935） すけそ漁組合を設立。
昭和11年（1936） 稲倉石鉱山のマンガン産出高が全国一となる。
昭和24年（1949） 新地町より出火し七百戸余りを全焼。
昭和25年（1950） 宝塚歌劇団一行が古平劇場で公演。
昭和29年（1954） NHK全国盆踊り大会に古平盆踊りが全道代表となる。
昭和31年（1956） アワビ・ウニの三ヵ年禁漁を漁協総代会で決定。
セタカムイ隧道竣工式。
昭和32年（1957） 余市～古平間のバス運行により定期船航路の廃止。
昭和33年（1958） 国道229号余市～古平間が完成。
昭和38年（1963） 古平体育連盟を結成。
ニセコ・積丹・小樽海岸国定公園に古平町が指定。
昭和40年（1965） 古平保育園の開園式。
古平町水産加工業協同組合を設立。
昭和42年（1967） 道道神恵内～古平間が開通。
古平町みなと保育所が落成。
昭和43年（1968） 古平町開町百年記念式典、第一回古平町文化祭を開催。
昭和47年（1972） 古平町文化会館が落成。
昭和49年（1974） 水産加工業協同組合集荷センター落成。
昭和54年（1979） 古平町民憲章制定、記念碑建立。
昭和56年（1981） 知的障害者入所更生施設「共働の家」開設。
昭和60年（1985） 古平家族旅行村オープン。
昭和61年（1986） 古平町武道館設置。
昭和63年（1988） 「みんなのスポーツ町」宣言。



古平町役場 新庁舎の上棟式
（昭和2年）
わずか169日の工期で竣工した役場庁舎。当時鉄筋コンクリート三階建のモダンな新庁舎は評判で町内外から見学者が訪れました。

第１回 全国たらつり節民謡大会
参加者104名、聴衆約600名と大成功で始まった「第１回たらつり節全国大会」。翌年は見るだけでなく食べたり買ったできる「みたら・やったら・くったらフェスティバル」として発展しました。

平成 2 年（1990） 第一回たらつり節全国大会開催。
平成 3 年（1991） 第一回みたら・やったら・くったらフェスティバル開催。
平成 7 年（1995） 古平町Ｂ＆Ｇ海洋センター竣工。
平成 8 年（1996） 豊浜トンネル崩落事故。
日本海ふるびら温泉「一望館」開設。
平成 9 年（1997） あいらんど広場パークゴルフ場開設。
豊浜トンネル崩落事故慰霊碑完成。
平成10年（1998） 吉田一穂生誕百年記念碑建立。
平成13年（2001） 豊浜トンネルとセタカムイトンネル連結完成。
平成14年（2002） 古平漁業協同組合／食品工場・展示販売所完成。
クリーンセンターオープン。
平成15年（2003） 元気プラザ開設。
平成16年（2004） 古平、美国、積丹の漁協が合併、東しゃこたん漁業協同組合となる。
平成17年（2005） 子育て支援センター開設。
平成20年（2008） 「認定こども園ふるびら幼児センターみらい」開設。
平成26年（2014） 古平町水産加工協同組合が破たん。
高齢者複合施設「ほほえみくらす」開設。
水産物流通荷捌き施設供用開始。

仲谷勇五郎漁場　ウインチ鰊沖揚げ
鰊漁は大正2年から好漁が続いていました。それを受けて（鰊定置網2か統以上の）漁業者は、沖揚げ作業の機械化を図っていきました。大正11年（1922）沢江村仲谷勇五郎漁業は、ボイラーによる蒸気機械を運転し、ウインチによる沖揚げを開始しました。また数の子製造用の海水の揚水にも使用されました。

ふるびらマップ

FURUBIRA TOWN MAP

北海道の西側、積丹半島の東側中央部に位置。
国道・道道を通じ余市町や積丹町、神恵内村からアクセス。

面　積

行政区域面積　188.36㎢。
うち山林が167.73㎢（89%）

人　口

住民基本台帳（平成30年1月1日現在）
人口3,139人（男1,487人、女1,652人）
世帯1,767世帯

町名の由来

現在の古平川に赤い崖があり、アイヌ語で「フレピラ（赤い崖）」と呼ばれていたのが場所の名に用いられたと伝えられています。

町　章

古平町の頭文字「古」を図案化。上部の両翼は伸びゆく町勢と平和を象徴し、下部の円は円満融和と古平湾を表現、古平町の豊かで明るく躍進する姿と発展への願いを込めたものです。

町民憲章

わたしたちは、
鰊で拓かれた古平の町民です
先人のたくましい精神と
あたたかい人情を受けつぎ
青い海に　生きる力を養い
緑の山に　豊かなる生活を築き
住みよいまちをつくるために
この憲章を定めます

一、心と体を鍛え元気で働きましょう
一、互いにあいさつをかわし助け合いましょう
一、きまりを守りよい習慣を育てましょう
一、自然を愛し美しい町にしましょう
一、ふるさとの歩みを大切にし文化を高めましょう

アクセス

- 車（国道229号）／小樽市⇔古平町　約45分、札幌市⇔古平町　約１時間30分
- ＪＲ／札幌駅⇔余市駅　約60分、小樽駅⇔余市駅　約23分
- バス／余市町⇔古平町　約25分

古平町商工会
マスコットキャラクター

ふるっぴー

犬神伝説の犬をモチーフにセタカムイ岩を表現した帽子、青色のマフラーとズボンで日本海の荒波をイメージしています。
ふるっぴーは、出身地古平町のPR活動を精力的におこなっています。

古平町150年記念町勢要覧

2018(平成30)年 3月発行